

トリニダード・トバゴ及びニカラグア訪問について

平成十八年八月二十五日（金） 閣議

内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画） 発言要旨

一 私は、八月九日から十七日まで、閣僚の外国訪問の戦略的な実施の一環として、現職閣僚としては初めて、トリニダード・トバゴ及びニカラグアの両国を訪問しました。トリニダード・トバゴでは、マニング首相、ギフト外相、首相の夫人であるマニング教育大臣、ユイル・ウィリアムス共同体開発・文化・ジェンダー大臣と、また、ニカラグアでは、ボラーニョス大統領、カルデラ外相、テラン家族大臣とそれぞれ会談し、小泉総理からの親書を手交するとともに、日本との二国間関係を始め男女共同参画・家族政策に至るまで幅広い意見交換を行いました。

二 トリニダード・トバゴは、カリコム（カリブ共同体）諸国の中で指導的な役割を果たしており、北朝鮮とも国交を有することから、日本とカリコム諸国との友好関係の維持、北朝鮮の拉致・ミサイル問題の解決、国連安保理改革への協力依頼等を行い、首相及び外相の理解を得たところです。また、同国は石油や天然ガスを産出するOPEC非加盟国であることから、我が国の資源確保の上での同国の重要性を伝えたところ、エネルギー産業を中心に日本企業の投資促進等の要望が出されました。

三 ニカラグアは、これまでも北朝鮮の弾道ミサイル問題に関する中米統合機構首脳宣言の発出において主導的役割を果たす等、我が国と協調的な関係にあり、拉致問題の解決や国連安保理改革等における一層の支持・協力を依頼しました。また、本年秋の大統領選挙に向け、同国の民主化の一層の定着の重要性に鑑み、公正な選挙のための資金協力等を表明したところ、大統領及び外相から強い感謝の意が表されました。

四 先般、東京で開催した東アジア男女共同参画担当大臣会合の成果については、トリニダード・トバゴ側から、カリブ海諸国においても同様の会議があり、今後その連携を図りたいとの考えが述べられる等、両国から強い関心が示されました。

五 トリニダード・トバゴはカリコム十四カ国、ニカラグアは中米統合機構八カ国の一員として、各地域の国連での意見表明等において重要な役割を果たしております。今回の閣僚訪問を契機に、例えば、この二十年来日のないトリニダード・トバゴの首相・外相等の来日を促す等により、戦略的外国訪問のフォローアップを行うことを提案したいと思います。また、我が国の在外公館については、環境の厳しい遠方の公館においても、大使や館員の士気が高く、在外公館としての機能が優れていることを心強く思うとともに、その重要性について国民の理解を一層広めていくことが必要と考えます。